

KANAGAWA HOHYUH CLUB
神奈川放友会
Newsletter



Vol.9 No.1 Jan. 2016
 第 33 号

神奈川放友会

〒231-0033 横浜市中区長者町4丁目9番地

ストーク伊勢佐木1番館 501 号

TEL 045 681 7573 FAX 045 681 7578

発行人 長谷川 武

発行日 2016年 1月 15日

憩いの館を育てよう

神奈川放友会 会長 長谷川 武

8年続いた「神奈川放友会」は、昨年4月に開催された第7回総会にて新「神奈川放友会」として衣替えし再出発しました。新「神奈川放友会」は、何か進歩発展があるのかと疑問視されますが、会のリニューアル創立の目的は、全会員活動の活性化、会運営費の確保、放射線に関する啓発活動の促進、医療放射線の管理支援等の再認識です。

会員相互の積極的な場づくりで、気軽なお喋りの場いわゆる「憩いの場」が出来上がることを期待しています。

多くの会員は現役を卒業しており、シニア組として第二の職場で働く者、職を去っている者、ボランティア活動をする者、趣味を謳歌している者等それぞれのスタイルでシニア生活を送っているのだと思いますが、同職業仲間としての連携に欠け、疎遠になっているのではないのでしょうか。会は、その取持ち役を演じたいのです。

神奈川放友会は、社会活動を「老いて益々盛んに」というスタイルを決して望んでいるものではありません。

一般社会の高齢化現象の真ただ中で、放射線業務という共通した仕事をやってきた者同志が、「過去・現在・未来を語り合う」憩いの館創りをして、同志のシニアグループの方々に健康保持の妙薬となる「憩いの館」を創設する、会員皆さんの手づくりを望んでいるのです。現役並みの、特別な社会活動を夢見てはおりません。

偶然にも、東日本大震災により引き起こされた未曾有の原発事故は、広範な放射性物質による環境汚染を発生させたことから、私たちも改めて社会での放射線に関する知識共有の必要性を痛感させられると共に、神奈川放友会は、医療放射線を学んできた者が大多数を占める特殊な団体ですから、我々の知識が「放射線の影響に関する社会的混乱＝風評被害等」に関して、多少でも役立つことが出来るのではないかと意見がまとまり、本の発行などこの間真摯に「放射線に対する安全・安心への啓発活動」を手掛けてきたところです。

一方、これまでの8年間は会費無料で会を運営してきましたが、リニューアルを機に年会費を徴収することになりましたので、あらためて会員再登録をお願いしたところ、142名であった会員数が現在84名と減りました。会の活動が会員数の影響を受けるとは思いません。同志は少数精鋭主義で、全会員参加による活性化を願っています。

神奈川放友会は、執行部のみの行動ではなく、会員全ての方が積極的にイベント等への参加を呼び掛けます。

シニア会員の社会的健康保持を第一目標にして、機関誌等の発行や放談会、政治・文学散策、競馬観戦、工場・名所見学などの企画をし、「憩いの館」としての活動を中心とするので、会員は何方でも気軽に参加が可能です。是非とも一度はイベント等に参加されることを期待します。また、会員の義務としては、機関誌への投稿なり放談会への参加で絆を深め、シニアとしての居場所を確保して頂きたいものです。

特に、機関誌への投稿は会員としての意思高揚にテキメンだと思いますので、是非とも投稿などによる参加をされ、会員意識とシニアの仲間として、自分の「憩いの館」を創り育てて下さい。

投稿へのお誘いは、「神奈川放友会ホームページ」にて呼びかけています。是非、ご覧頂きたいと思います。

原稿内容は、基本的にはジャンルを問いません。放射線に関連した情報的なもの、原発事故関連に関するもの、医療放射線に関連するもの、体験記や旅行記、調査資料や放射線に関する各種データや論文、更には詩・短歌・俳句・川柳等、写真や文字で表現したものなら、何でも結構です。とにかく、全会員の参加を呼び掛けたいと思います。

しかし、ご承知の如く会員のみへのサービス活動にとどまらず、多少でも社会への還元活動をすべく出版物や講演会等の開催、クリニック施設への「線量軽減策への支援」を企画しており、多少の準備が進められています。

無理や背伸びをした活動ではなく、シニアらしい気楽な活動をモットーとして発展したいものです。

最後に、追加して記しておきたいことがあります。それは、組織としての選挙への支援関与の話題です。

神奈川放友会は任意団体ですので、自由な立場であり選挙支援を主目的にはしておりません。政治団体活動が目的目標ではありませんので、のめり込んだ支援活動をする体制はありません。

平成28年には国政選挙がありますが、自由な立場で放談し合えばよいと思います。他組織からの指示や強制などを受けることはあり得ません。公益社団法人神奈川県放射線技師会とは法的立場が違いますので、任意団体の神奈川放友会はフリーハンドであり、現執行部に於いてはNPO法人化を目指す目標は持っておりますが、急ぐことなく十分な実績と準備を重ねる心掛けですので、会員のご意見やご指導をお願い申し上げます。

広島・長崎 残留放射能を極秘調査

〔 広島・長崎で 1950 年危険性否定後も極秘調査 〕

「広島・長崎への原爆投下から 4 年半後の 1950 年 3 月、米軍は両被爆地の降雨地域（黒い雨）で、残留放射能を極秘調査していたことが分かった。」と 2015.8.5 の毎日新聞は内部資料を入手したとして報じている。

米国は戦後早い時期に残留放射能の危険性を否定した。原爆投下後の残留放射能を巡って、米政府は 1945 年 9 月「人体に影響はない」との公式見解を公表している。担当した科学者は土壌調査結果などから「長期にわたって放射能が残留することを証明できた」と報告している。

ただし、日米の科学者が 1948 年まで広島・長崎で残留放射能を複数回調査したことが判明している。

米学士院文書館の資料によると、放射性物質に「比較的低レベル」と記録があったが、調査結果は「機密扱いにされるべきだ」と記されていた。

調査は委託された米科学者 2 人が 1950 年 3 月広島と長崎に入り、米原爆傷害委員会（ABCC）の医師も同行し、黒い雨が降った広島市己斐地区と長崎市西山地区でサンプルを採取している。この地の環境放射線は明らかに高い値の反応があったとされている。採取されたサンプルは米国へ送られている。

米軍が早い時期に残留放射能の影響を否定したのは、「原爆投下責任が広がらないための政治的メッセージでした。一方、50 年代は ABCC が長期的な調査を視野に入れていた時期で、残留放射能の影響を懸念していたのではないかと葉佐井博巳広島大名誉教授は話している。

〔 内部資料 生々しいやりとり 〕

毎日新聞が入手した書簡や会議録によると、残留放射能の検出を巡る生々しいやり取りが残されていた。

「検出された放射線を『わずかで影響がない』と言う者がいるだろうが、今後 10 年も放置すべきでない」と、ABCC カール・テスマー所長（当時）は 1950 年 3 月 29 日米学士院・学術会議の科学者に手紙で訴えている。低レベルの残留放射能の影響について、「未知の領域だ」として解明の必要性を強調している。

ABCC による放射線影響調査は、被爆者の集団と被爆していない人（非被爆者）の集団で、がんや奇形児などが発生する割合を比較し、被ばく線量ごとのリスクを推定する役を負っていた。しかし、原爆投下時に広島、長崎にいなかった人が被爆地で生活する中で、放射性物質を体内に取り込み内部被ばくするのなら、正確なリスク評価が出来なくなる・・・手紙には懸念が記されている。

ABCC に助言する立場の米本国の科学者は、放射性物質が水や食物、呼吸を介して人々の体内に実際に取り込まれたかを調べるよう指示。被爆地の飲料水や、死亡した非被爆者の肺細胞から放射性物質の有無を調べるよう提案している。また、共同墓地の被爆者の遺骨利用も選

択肢に挙げていた。

〔 隠ぺい政策の下で情報収集 〕

1945 年 9 月、連合国最高司令官総司令部（GHQ）は原爆被害の報道を禁止すると同時に、原爆の影響を調査し、放射線被害の情報収集を始めた。

日本学術研究会議によって「原子爆弾災害調査研究特別委員会」が立ち上げられ、原爆被害の調査を行っていたが、調査資料はすべて米国側に提出させられ本国に送られている。

〔 原爆傷害調査委員会（ABCC） 〕

1946 年、核兵器によって世界支配する政策を明確化したアメリカは、核兵器使用による人体への影響、特に放射線の攻撃的な側面と、防御的な側面の両方から研究する必要に迫られていた。

トルーマン大統領は 1946 年 11 月 26 日、全米科学アカデミーに原子爆弾障害に関する委員会の設置を指令し、この委員会は広島・長崎に原爆傷害調査委員会（ABCC）の設置を決めた。臨床部、臨床検査部、放射線部、病理部、統計部、医科社会学部を設けて被爆者調査をした。トルーマン大統領は原爆の惨状についての報道を一切禁止し、被爆者治療を徹底的に妨害している。

1948 年に日本の厚生省国立予防衛生研究所が、正式に調査プログラムに参加している。しかし、被爆者調査にあたり、調査はするが一切治療には関わらなかったため、「血は取られるが治療はしてくれない」と恐れられていた。また、調査データはすべて没収されアメリカへ送られている。アメリカは調査、記録を独占するために、外部からの広島、長崎への入市を禁止し、国際的支援も妨害し、一切の原爆報道を禁止した。

ABCC は調査が目的の機関であるため、被爆者の治療には一切あたることはなかった。

1958 年 8 月に、国立予防衛生研究所と寿命調査に関する同意書が交わされ、日米共同研究体制の基盤が確立している。更に、1975 年 4 月になって、ABCC と厚生省国立予防衛生研究所を再編し、日米共同出資運営方式の「財団法人放射線影響研究所」に改組された。

ここでの調査研究結果が、放射線影響の尺度基本データとして利用されることとなっている。



原爆傷害調査委員会 1955 年頃



改組後の放射線影響研究所 2011 年

< 参考資料 >

- 1) 毎日新聞 2015.08.05
- 2) 原爆傷害調査委員会 ABCC

原発事故後初の被曝労災

被曝労災 不安なおつづく

[原発事故後 初の被曝労災]

「福島労働局富岡労働基準監督署が2015年10月20日、東電福島第一原発事故後の建設作業などで元作業員が被曝し、白血病を発生した41歳男性を労災認定した。」とマスコミで報道された。

厚労省の発表によると同原発事故後の作業で被曝した作業員が、労災認定されたのは初めてである。

事故後の作業に当たり累積被曝量が5mSvを超えた人は15年8月末で、2万1千199人おり今後も増え続けそうだという。

厚労省によると、男性は2011～13年に複数の原発施設で働いていた。このうち12年10月から13年12月の間は、福島第一原発で原子炉建屋の覆いや廃棄物焼却設備の設置工事に携わっている。

福島第一原発では1年余での被曝量は15.7mSvであり、業務全体での被曝は19.8mSvでしたが、その後に白血病を発症している。

福島原発以前には九州電力玄海原発の定期点検の工事に参加し、約3か月で約4mSvの被曝がある。

厚労省は1976年に定めた基準では、業務での被曝線量が年5mSv以上で、被曝から1年以上たつて白血病を発病した場合は労災認定している。厚労省の認定検討会では「他の要因が見からず、業務が有力な要因と結論付けている」が、「被曝と病気との因果関係は明らかではないが、労働者補償の観点から認定した」としている。

更に厚労省は、がんのリスクが高まるとして国際的な目安とされる「年間50mSv、5年で100mSv」を原発作業員の被曝線量上限とし、「今回の認定により科学的に被曝と健康影響の関係が証明されたものではない。『年5mSv以上の被曝』は白血病を発症する限界ではない」と説明している。

[被曝による労災認定の現状]

これまでの原発労働者に関するがんの労災認定は、白血病6人、悪性リンパ腫5人、多発性骨髄腫2人の計13人である。

労災認定基準は年5mSv以上だが、作業員の防護基準で定められた被曝限度は年50mSvである。しかし、厚労省は「防護基準を守っていても労災は起こる。労働者の補償に欠けることのないよう労災は認定する」と説明している。

それでも、厚労省は15年8月、福島第一原発で労災事故が増え、被曝量も「高止まり」しているとして、安全衛生管理の徹底と強化を求めるガイドラインを策定している。

1) 福島第一原発事故後の

作業員の累積被曝線量

東京電力の資料によると、「東電福島原子力発電所事故後から2015年8月まで」の作業員の外部被曝による累積被曝線量は、次の表の通りである。

●東京電力福島第一原発作業員の累積被曝線量

(事故から2015年8月まで) (東京電力による)

被曝限度	被曝線量	被曝者(人)
一般公衆の年間被曝限度 1mSv	1mSv 以下	13,490
原発作業員の白血病の労災基準 5mSv	1 超～5mSv 以下	10,162
原発作業員の年間被曝限度 50mSv	5～10mSv	5,697
	10～20mSv	6,152
原発作業員の5年間の被曝限度 100mSv	20～50mSv	6,764
	50～75mSv	1,886
緊急時の原発作業員の被曝限度 250mSv (2016年4月から)	75～100mSv	526
	100～150mSv	137
緊急時の原発作業員の被曝限度 250mSv (2016年4月から)	150～200mSv	28
	200～250mSv	3
	250mSv 超	6

2) 一般住民の外部被曝

福島住民約46万人を調べた外部被曝の推計調査では、事故後4カ月間で5mSv以上被曝した人が、原発作業員以外に「937人」いる。

●事故後4カ月間に於ける一般住民外部被曝

被曝線量	被曝者(人)	被曝者の割合%
1mSv <	279,118	62.2% ・ 2mSv 以下
1-2mSv	142,344	31.7% 93.9%
2-3mSv	24,597	5.5%
3-4mSv	1,457	0.3% ・ 5mSv 未満
4-5mSv	495	0.1% 99.8%
> 5mSv	937	0.2%
Total	44,8,948	100%

最高値：25mSv 平均：0.8mSv

<参考資料>

1) 2015.10.21 読売新聞、朝日新聞、神奈川新聞

2) www.m.kyoto-u.ac.jp/anzen_kiban//session2

記：長谷川 武

Mauna Kea(4205m)からの夕日と星空

中村 豊 (会員番号 8)

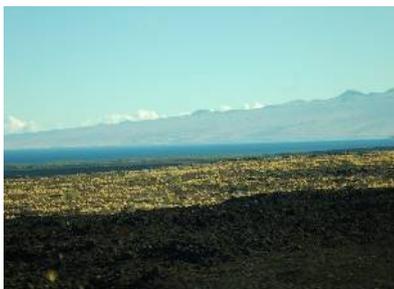
ハワイの自然に憧れ、ハワイ島を旅してきました。現在はハワイ島への直行便がないためホノルルで乗り換え、ローカル色豊かなコナ空港に着く。クラシカルなホテルはカイルアコナ湾に面し、広いロビーにはハワイ王国の歴史を説明する絵画やカヌーや衣装などが展示してある。カイルア栈橋にはアフエナ・ヘイアウというハワイ王国を統一したカメハメハ大王が晩年を過ごした茅葺屋根の史跡がある。

ハワイ諸島はホットスポットによる火山形成と太平洋プレートが北西方向へ100万年間に51kmという速度で移動しているため、現在は8つの島と多くの岩礁から成立している。ハワイ島はハワイ諸島の最東に位置し、最大の島であることから "Big Island" の愛称でも呼ばれる。面積は10,432.5 km²で日本の四国の約半分程度、岐阜県ほどの大きさである。ハワイ島は唯一の活火山の島である。島は5つの楯状火山で構成されていて、互いに噴火期間が重なり合いながら、順番に噴火している。5つの火山は北西から活動順に、コハラ(死火山)、マウナ・ケア(休火山)、フアラライ(休火山)、マウナ・ロア(活火山)、キラウエア(活火山)である。これらのうちマウナ・ロアの一部とキラウエアがハワイ火山国立公園に含まれる。冬に積雪があるマウナ・ケア(白い山)は海拔4205mで5000m以上の水深が有るため世界最高の山といわれ、島の半分を占めるマウナ・ロア(長い山)の裾野は太平洋に没するまで続き、世界最重量の山とギネスに登録されている。



ハワイ島(赤字は山脈を表わす)

コナ市のある西側は乾燥して溶岩が剥き出しの荒れた台地を形成しているが、日系移民が開拓したヒロ市のある東側は海流の影響で湿潤で深い渓谷や大きな滝や美しい森林がある。



西側の溶岩台地



東側のアカカの滝

ハワイ島の火山に登るには、活火山の溶岩流出情報の把握や4000mを超える高度順応などのために基本的にガイドの案内が必要である。

キラウエア火山

ハワイ島には有料道路は無い。国道はフリーウェイで舗装は良く、55M/Hr(約90km/時)が制限速度である。国道190号を北上して、リゾートエリアから内陸に入り、広大なパーカー牧場に行く。この牧場はパーカー氏がカメハメハ大王の孫娘と結婚して作り上げた牧場で総面積910km²(東京23区の1.5倍)もある。

パニオロというスペイン移民のカウボーイが従事している。この牧場の幼牛はオーストラリアに輸出され、OG Beefになるそうである。風化が進む古いコハラ山脈(1670m)から東側は雨が多く、大木が大きな森を形成している。東海岸沿いのマウナ・ケアの険しい渓谷にある100m以上の美しいアカカ滝は水の多さを現していた。ハワイ火山国立公園内のキラウエア火山群(1248m)は火口が7つある。

毎年、溶岩の流失が続いているが、周囲の散策は可能であった。マウナ・ロアを背景にして荒涼とした大地(Kilauea Caldera)に大きな噴火口(Halema'uma'u Crater)が口を開け、煙を吐いている。溶岩が形成したトンネルを一周する。

ガイドが火の神の怒りにより変えられたオヒア(木:男)・レフア(赤い花:女)の悲恋を話してくれる。今も、噴火点は東に移動し、新たな沿岸を形成している。ガイドに "When will be born new island?" と聞くと、 "Just wait, only after 10,000 years." と答えてくれた。



Halema'uma'u Crater のパノラマ写真

ハワイの火山のほとんどすべてが玄武岩や粗粒の斑れい岩で形成され、噴火のタイプはハワイ式と呼ばれ、流動性のある玄武岩溶岩が流れ出すもので、日本などで見られる安山岩の激しく危険な噴火と異なっている。マウナ・ロア(4169m)は島の南中央から東海岸まで続き、溶岩が作ったプナルウ黒砂海岸ではウミガメが昼寝をしていた。この砂の中から薄緑色の宝石(8月の誕生石)が見つかり、米国最南端である緑砂海岸がある。



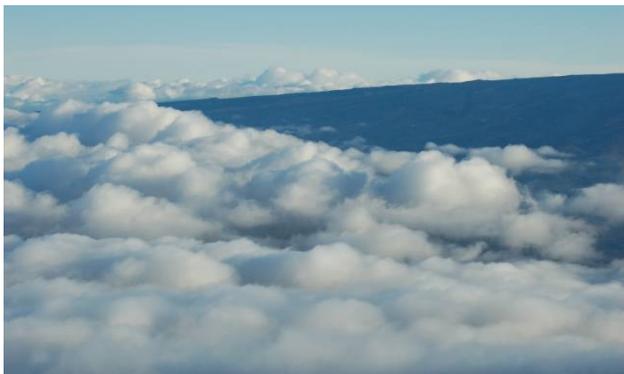
プナルウ黒砂海岸

マウナ・ケア

車は国道 190 号からマウナ・ケア山麓の黒い溶岩台地の国道 200 号をひた走る。ハワイ島には野生化した数百匹の野ロバがいたが、車と衝突して危険なため捕獲されたいらしい。時折、強い雨が降る。国道を左折して、いよいよ傾斜のきつい登り道(サドルロード)に入る。15 時過ぎに 2800m のオニヅカ(*)・ビジターセンターに到着する。ここまで来ると雲は眼下に広がっている。

1 時間余りの高度順応が規定されている。気温は 15℃ ぐらいだ。長袖のヤッケを着る。近くにある 2 階建の木造建築は天文台研究者や職員の宿舎である。

*オニヅカ(ハワイ島出身の故エリソン・ショウジ・オニヅカ大佐・宇宙飛行士。1986,1,28 スペースシャトル・チャレンジャーの爆発で 6 人の宇宙飛行士と事故死)



マウナ・ロアの雲海と天文台職員宿舎

17 時前に出発、雄大なマウナ・ロアやマウナ・ケアの山容を眺めながら未舗装の道を車に揺られて行く。

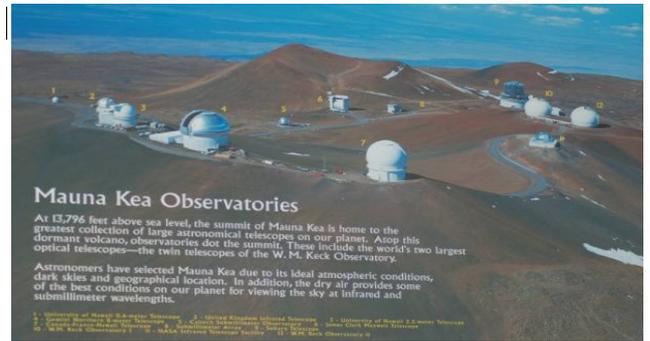
山頂に近付くと道は舗装道路に替わる。これは天文台の精密機器の輸送保護とのことだ。

マウナ・ケア山頂(4205m)に到着する。ここは北緯 20 度で北半球と南半球の星空が観測でき、晴天率 90% という天文観測には絶好の場所だ。

マウナ・ケア天文台群(Mauna Kea Observatories)には 12 基の世界の天文台が集まっている。

日本の国立天文台が所管する“すばる望遠鏡”がある。この望遠鏡には独自に開発した 116 個の CCD 素子を配置し、8 億 7000 万画素を持つ直径 8.2m の超広視野主焦点カメラ(HSC: Hyper Suprime-Cam)が搭載され、世界で初めてアンドロメダ星雲 M31 全体像の撮影に成功した。

現在は太陽系外惑星をピンポイントで観測する計画もある。



マウナ・ケア天文台群(MaunaKeaObservatories)



“すばる”天文台

車に常備されている厚手のウインドーヤッケを着こんで外に出る。予想したより寒くなく、高山病の症状も出ない。沈みゆく太陽と変化する周囲の景色を写真に収め、1 時間ほど滞在する。暗闇のビジターセンターに戻り、星空を眺める。ガイドが望遠鏡を使い、木星の観測といろいろな星座を説明してくれる。北斗七星(大熊座)とカシオペアは北の空にわずかに見え、北極星を確認できた。蠍座といて座は南の空に、天の川は月の明かりで良く見えなかったが七夕の織姫と彦星は確認できた。

南十字星は 4~6 月に見えるそうだ。

素晴らしいサンセットと星空を楽しめた。ハワイ島の特産品のコナコーヒーは有名だが、香りが無く、苦いという印象だった。地ビールの「ロングボード」「ビッグウェーブ」「ファイアーロック」はどれもサッパリとした味で美味かった。



マウナ・ケア山頂の夕日と雲海

秋恒例散策企画報告

大磯、文学と政治・経済の歴史の町散策

小松崎 真一（会員番号 18）

神奈川放友会イベントは平成 27 年 10 月 31 日行われた。大磯駅に集合したのは 9 名で、ガイドさんと合流してバスで大磯城山公園跡地へ向かった。

◇旧吉田茂邸

正門を入るとバラ園があった。吉田茂はこよなくバラを愛していたとのこと。当時は大きなバラ園であったが現在縮小された。



バラ園

内門（兜門）を通り庭園を見ながら邸宅跡地へ行った。平成 21 年火災で消失した邸宅の建て替え工事がおこなわれていました。



庭園から建築中の吉田邸

見事な庭園を廻り、七賢堂、吉田茂銅像を経て邸宅を後にして県立大磯城山公園へ行った。



吉田 茂銅像

◇旧三井別邸跡(県立城山公園)

県立城山公園は三井家の別荘のあった跡地。

明治 31 年別荘城山荘を建築した。その構造模型が大磯町郷土資料館エントランスホールに展示されていた。



城山公園入口



城山荘構造模型

縄文土器や横穴墓などが発掘され、室町時代には小磯城が築かれていた。横穴古墳群は公園内 32 ケ所に現存していた。

この公園内は全部見ると数時間かかるとのこと。茶室如庵跡地を経てバスで大磯へ向かった。

島崎藤村邸は、総監道で下車して、徒歩数分であった。

◇旧島崎藤村邸

休憩所でガイドさんの説明があった。

この日は観覧者が多く、空くのを待った。



藤村邸宅



藤村が倒れた奥座敷

◇放談会(大内館にて)

午後は大内館に移った。島崎藤村は、昭和 16 年 1 月 13 日～14 日に大内館で宿泊している。玄関には藤村由来の「千曲川旅情のうた」の額が飾っていた。

きで口の滑りも良くなり、昼食をとりながら和やかなひとときを過ごした。

◇地福寺

午後 3 時藤村、静子夫人墓地のある地福寺へ移動。



小松崎さんの講話

昼食前の約 20 分間は、島崎藤村についての講話を聞いた。

講話 : 島崎藤村 [1936 年以降晩年まで]

講師 小松崎真一

演者手製の「藤村に関する紙芝居」形式により次のような内容で講演された。

1936 年静子夫人を同伴して南米ブエノスアイレスの国際ペン大会へリオデジャネイロ丸で神戸港から出発した。ペン大会終了後フランスマルセイユを經由して帰国。



藤村が乗船したリオデジャネイロ丸(実物)

1940 年航海の様子を紀行文「巡礼」出版。

1941 年 (昭和 16 年)

1 月天明愛吉、菊池重三郎に招かれ、大磯の左義長の祭りを見物。



左義長



1942 年大磯に土地家屋購入。同年 2 月から居住。

1943 年「東方の門」執筆中自宅で脳溢血の為倒れ翌日死去。8/26 青山斎場で本葬。10 月遺髪、遺爪を馬籠の永昌寺に分葬。

写真と詳細を披露した。

「放談会で盛り上がりよう!!」

テーマ:「過去・現在・未来を語る」を、大内館の和食料理に舌包みを打ちながら、多少のアルコール付



地福寺にて

藤村夫妻の墓は境内にある。ガイドさんによるとお寺の境内には、お墓は置かないのが通例だそうです。「特別であったのでしょうか」とのことでした。

◇旧木下建平邸

日本に現存する最古のツーバイフォー工法として建設、貴重な建物。(国登録有形文化財)



旧木下建平邸

◇澤田美喜記念館

澤田美喜は三菱財閥岩崎久弥の長女。

1 万坪のこの地に戦後エリザベス・サンダース・ホームを開設。戦災孤児を養育。「隠れキリシタンの遺物」の収集家でもある澤田美喜の記念館として拝観できる。澤田美喜さんを忍びながら、教会風の記念館を拝観した。



澤田美喜記念館

午後 4 時 大磯駅で解散。

◇総括

曇りであったが寒さは感じられなかった。徒歩が長いのと階段が多かったのは予想外であったので、足の疲労を感じたのではないのでしょうか。

みんなの広場

■ 平成 27 年度秋の叙勲

櫻田 晃さん瑞宝双光章を受章

元横浜市立脳血管医療センター医療サービス部画像診断科長の櫻田 晃(63)さんが、平成 27 年度秋の叙勲で瑞宝双光章を受章されました。受章おめでとうございます。

■ 横浜市市民利用施設予約システム

(はまっこカード)団体登録をしました

12 月 8 日、神奈川放友会は「はまっこカード」団体登録をしました。会員の皆さまで施設の利用を考えている方は神奈川放友会に連絡をください。ご協力いたします。

【スポーツ施設】

【文化施設】

(1) 団体登録

団体登録では登録者 5 名と団体のメンバーで、全ての部屋の利用申込ができます。

(2) 個人登録

個人登録では登録者 1 名と同伴者で、施設の部屋が利用できますが、ホールやギャラリー等一部の部屋の利用申込はできません。

■ 乳がん検診のマンモグラフィー

推奨年齢を 45 歳以上に引き上げ

—アメリカがん協会—

乳がん検診に使われるマンモグラフィー（乳房エックス線撮影）。米国がん協会が 10 月、受信の奨励年齢を引き上げた新指針を公表するなど、国内外で新しい動きが出ている。新指針では、45 歳から 54 歳は毎年の受診、55 歳以降は 2 年に 1 回の受診を推奨するとし、もし家族にがん患者がいる場合などは、早めの受診を呼びかけている。

国内の指針では、40 歳以上の女性が 2 年に 1 回受けることになっている。

東北大医学部のグループの研究では、全国の 40 歳以上の女性約 7 万 6000 人の協力を経て実施した超音波検査併用とマンモグラフィー単独のグループに分けてがんの発見率を比較した結果、併用グループは約 1.5 倍高かった。

■ 被曝上限引き上げ

原発緊急時 250mSv 厚生省検討

原発事故の対応にあたる作業員の被曝（ひばく）線量について、厚生労働省の検討会は 17 日、放射性物質が大量に放出されている緊急時の上限を、現行の 100mSv から 250mSv に引き上げることなどを盛り込んだ報告書をまとめた。今後、二つの審議会を経て、厚生省が決める。東京電力福島第一原発事故では、特例として

250mSv に引き上げ、9 カ月後に 100mSv に戻した。昨年 12 月原子力規制委員会が緊急時は 250mSv に引き上げるべきだとの考えを示し、厚労省が協議していた。

国際原子力機関（IAEA）は緊急作業時の線量限度として、500mSv 未満を推奨している。また、通常時については、厚労省の現行規則が定める上限は 5 年間の積算で 100mSv。緊急時と通常時を足しても、5 年間で 100mSv を超えないよう厚労省が求めている。報告書では、事故時を含む 5 年間は通常時の上限の 100mSv を超しても、通常時ならば一定の条件で年 5mSv まで追加を認めるとした。5 年たった後は、積算線量に応じて生涯で 1mSv（1 千 mSv）を超えないよう、5 年ごとに上限を見直す。

厚労省によると、今回の事故で、緊急時に 100mSv 超の被曝をした作業員が 174 人いる。事故から 5 年間はこれ以上被曝させられず、低線量の作業もできないなどとして見直しを求める声が出ていた。

■ フィンランドで世界初

放射性廃棄物最終処理場を許可

ロイター通信などによると、フィンランド政府は 2015 年 11 月 14 日、原子力発電所から出る放射性廃棄物を半永久的に埋める最終処分場の建設を許可したと報じた。

処分場はフィンランド南西部オルキルオトの地下 400 ～450m の岩盤地層に建設。10 万年にわたり保管する。最大 6,500 トンの処分が可能で、2030 年に稼働する予定である。

世界には約 27 万トンの放射性廃棄物があるとされ、スウェーデンでも同様の計画があるとされている。

■ 県立がんセンターに開棟

国内 5 番目 重粒子線施設

横浜市旭区の県立がんセンターで 12 月 5 日、国内 5 か所目となる重粒子線治療施設「i-ROCK（アイロック）」が開棟した。重粒子線治療は、体の深い部分にあるがん細胞をピンポイントで破壊する最先端医療。

開棟式では今月中旬の治療開始に向けて、関係者が施設への期待感を表した。

重粒子線治療は、切開手術をしないため体の負担が少ないほか、従来の放射線治療よりがんの殺傷能力が高く、治療期間が短縮できるとされる。正常な細胞を傷つけにくく、副作用が少ないのも特徴だ。費用は患者 1 人あたり 350 万円。県は県内に 1 年以上在住する人に、1 割（35 万円）を上限に補助する方針。

編集後記

☆ ★ ☆ ★

新年を迎えました。創立 9 年目を迎え、さらなる飛躍を目指します。会員の皆さまからの原稿を募集しています。

皆さまのご支援とご指導をお願いします。